

RZ250

1980年 / 市販車

ヤマハ発動機伝統の2ストロークエンジンの魅力を凝縮したピュアスポーツモデル。市販レーサー「TZ250」の技術を惜しみなく投入した、リッター当たり140馬力の高出力エンジン、ヤマハ発動機独自のモノクロスサスペンション、軽量キャストホイール等による圧倒的な性能とRDシリーズの直線的なデザインから、レーシングマシンを彷彿とさせるより精悍でシャープなスタイリングが多くのファンを魅了した。“ナナハン（750cc クラスの通称）キラー”と呼ばれた兄弟モデル RZ350とともに4ストロークに移行しつつあった市場のトレンドを一変させ、後の“レーサーレプリカ”ブームの原点モデルとして日本のバイク史にその名を刻んだ。

それまで水平基調の中にタンクやシートを独立させ配していく手法から、タンクとサイドカバーを連続した塊の要素としてシルエットを整えることで、それまでにない力強さやダイナミックで切れ味のある動きの印象を与えている。また、ライダーが跨った際、燃料タンクにニーポケット（えぐり）を設けることで、機能と造形両面の「人車一体」を表現し、それ以降のロードモデルにおいて不可欠のデザイン要素となった。

